

音楽 No. 4

このワークシートは学習のあと、
先生にわたしましょう。

3年組
名前 _____

めあて リコーダーをふいてみよう

- * 器楽・歌唱教材の音源は、授業での聴取または学校 HP 等からの限定配信をご利用ください。
学校からの配信は、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会 SARTRAS へ登録・申請のうえ、パスワード等を用いた限定配信及びストリーミング配信（ダウンロード不可）で行ってください。
- * 吹奏楽器や歌唱の扱いは、家庭等校外での活動を視野に作成しています。
授業で扱う場合はマスクの着用やソーシャルディスタンス、衛生面等にご留意ください。
- * 「◎うそどり」「◎森ひばり」の各曲は、授業での鑑賞をご利用ください。

1. 教科書 16 ページの写真を見ながら、自分のリコーダーとくらべて、部分ごとに名前をたしかめましょう。

- ・息をふきこむところは といいます。
- ・ふき口の下に、音の出る大切なところがあり、 といいます。
- ・リコーダーの前がわには、指あながたてにならんでいますが、
うらがわの上の方にもあながあります。これを といいます。

2. 教科書 17 ページの「◎リコーダーは歌う」の、それぞれの曲をきいて、リコーダーの音について気がついたことや、おもしろいと思ったことなどを書いておきましょう。

曲名	リコーダーのしゅるいと本数	気がついたこと、おもしろいと思ったこと
いつも何度でも	ソプラノ リコーダー 1本	
「小鳥のために」から うそどり	ソプラノ リコーダー 1本	

クラリネットを こわしちゃった	ソプラノ リコーダー 2本	
「小鳥のために」から 森ひばり	ソプラニーノ リコー ダー 1本	
大きな古時計	ソプラノ リコーダー アルト リコーダー テノール リコーダー バス リコーダー それぞれ1本ずつ	

3. 教科書 18 ページを見て、「シ」の音をふいてみましょう。

* 指は、左手の人さし指で1番上のあなを、親指でうらあなをふさぎます。
ほかのあなはふさぎませんが、右手の親指で楽きをささえます。

<まなびリンク>の、「さあ、ふいてみよう!」のえいぞうも見て、
息の入れ方や、タンギングについても知り、まねしてふいてみましょう。

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/m-link/ongaku/3.html#001>



★思った方に○をつけましょう。

- () きれいな音でふけた
() 少しむずかしかった

4. 教科書 20 ページ上を見て、あいさつの言葉を決め、「シ」の音でふいてみましょう。

★思った方に○をつけましょう。

- () 「トゥ」や「ル」のタンギングに、気をつけてふけた
() タンギングが少しむずかしかった

5. 教科書 20 ページ「シシシでおはなシ」の音げんをきき、合わせて歌いましょう。

また、リコーダーのシの音でふいてみましょう。少しずつ練習します。

★思った方に○をつけましょう。

- () 音楽に合わせてふけた
() 「かくれんぼ」「あそびましょう」のところが、少しむずかしかった

6. 教科書 21 ページを見て、「ラ」の音をふいてみましょう。

* 指は、「シ」の音をふいてから、左手の中指で2番目のあなをふさぐと「ラ」になります。

「シ→ラ」「ラ→シ」を何度もふいてみましょう。少しずつ練習します。

★思った方に○をつけましょう。

- () きれいな音でふけた
() 少しむずかしかった

7. 教科書 21 ページ「にじ色の風船」の音げんをきき、合わせてドレミで歌いましょう。

また、リコーダーでふいてみましょう。少しずつ練習します。

★思ったものに○をつけましょう。

- () シとラの両方とも、きれいな音でふけた
() シの音は、きれいな音でふけた
() ラの音は、きれいな音でふけた
() 少しむずかしかった

8. 教科書 23 ページを見て、「ソ」の音をふいてみましょう。

*指は、「ラ」の音をふいてから、左手の薬指で3番目のあなをふさぐと「ソ」になります。

「シ→ラ→ソ」「ソ→ラ→シ」を何度もふいてみましょう。少しずつ練習します。

★きれいな音でふけたら、それぞれ○をつけましょう。

- () 「シ→ラ→ソ」

() 「ソ→ラ→シ」

9. 教科書 24 ページ「ゆかいなまきば」の音げんをきき、合わせて歌いましょう。

また、楽ふのリコーダーのマークのところを「シシララソー」と、ふいてみましょう。

タンギングに気をつけて、少しずつ練習します。

★できたら、それぞれ○をつけましょう。

- () タンギングに気をつけてふけた

() リズムに気をつけてふけた

() シラソの3つの音を、きれいにふけた

10. 「シ」「ラ」「ソ」の音を組み合わせ、 のリズムでフレーズをつくりましょう。

★ふいてためしながらつくり、できたら下の○に書いておきましょう。

はじめの音



はじめの音



はじめの音



はじめの音

